

平成20年度「**絵てがみコンクール**」総評 平成21年2月

**審査委員長 川本 浩右**

熊本県主催の「働く女性応援事業・絵てがみコンクール」は、今回で3回目を迎えました。ことしの応募作品数は、昨年よりも増え、105人の方々から172点の作品が寄せられました。特筆すべきは、小学2年生からの応募があったことです。それだけ、手作りの「絵てがみ」愛好者層が、広がりを見せているということでしょうか。

今回の応募作品を拝見すると①テーマや自らの主張(目的)を、きちんととらえて表現している②筆遣いが一段と巧みになってきた一ことが、まず挙げられます。また、これまで職場を中心テーマとする構成が多かったのですが、家庭が舞台となる作品が増えてきました。

働く女性にとっては、家族の協力が欠かせないことであり、題材に取り上げられるようになったのも当然の成り行きだろうと思います。さらに、先に触れましたが、応募者の年齢構成が広がったことで、より多彩な作品が集まったのもうれしいことでした。

審査は、事前に与えられた「働く女性を取り巻く状況を的確

にとらえる」という「審査基準」を踏まえた上で、①絵と文字の配置とバランス②表現力の豊かさ③作品の獨創性一などを重視しました。

最優秀賞となった熊本市の山里慶子さんの作品は、働く女性がこれだけ増えても、親世代の支援なしでは、まだまだ日常生活に困難を伴う部分もあり、それが10年以上も続いている姿を、限られたスペースにバランスよく表現してありました。

実体験をありのままに表現した内容であろうと推察され、多くの人々の共感を得る作品といえましょう。「おばあちゃんも がんばるけん…」というひと言に、万感の思いが込められていました。各審査員から「涙を伴うほど実感のこもった作品」などと高い評価を得ました。

ただ、この作品は同時に「働く女性を別の女性が支えるという現状を、将来は何とかしなくてはいけないのではないか」というメッセージとして、私たちは受け止める必要があるのではないかと考えます。「女性が働く社会」が、いつまでも「女性の肩」に支えられていいのかという問い掛けとして受け止め、それぞれの立場で各自があらためて考えてみるいい機会ではないでしょうか。

最後になりましたが、ご協力いただいた審査委員4氏に、この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

**審査委員**

(50音順)  
敬称略)

**緒方 洋子**

NPO法人チェンジライフ熊本  
理事長

**川本 浩右**

株式会社 熊本日日新聞社  
紙面審査委員会委員

**田崎 弘子**

熊本絵手紙友の会 会長

**松本 時雄**

郵便事業株式会社九州支社  
九州支社長

**吉山 由紀子**

キャリア・アップくまもと 役員  
( 肥銀リース株式会社 )  
営業総務第二部業務役補)